

駒澤大学2 - 3 明治大学

首位明治に一步及ばず 守備に課題が残る!!

3 点目のPKを久保(右)に決められる(撮影白瀬忠意)

11月21日 13:50 国立西が丘サッカー場

駒大 2 (0-2) 3 明大
(4位) (2-1) (1位)

得点者 (アシスト)

[駒]52分:金久保(素)
[駒]62分:素(金久保)

[明]13分:久保(鹿野)
[明]19分:山本(三田)
[明]62分:久保(PK)

KOMAZAWA

GK①岡 大生(4)
DF③亀井秀将(4)
DF④林堂 真(3)
DF⑥金 正也(4)
DF②⑨砂川太志(3)
MF⑧笠井雄太(4)
MF⑩碓井鉄平(1)
(85分)⑩三宅 徹(3)
MF⑬奥村 情(2)
(63分)⑭大塚涼太(4)
MF⑦金久保 彩(4)
(80分)⑮濱田 宙(3)
FW⑨素 佑喜(4)
FW⑫山本大貴(1)

S U B

GK⑫井指隆範(4)
DF⑤山崎紘吉(3)
MF⑪佐光 塁(4)
FW⑬馬込 司(4)

MANAGER
秋田浩一

MEIJI

GK⑫高木 駿(3)
DF②鹿野崇史(4)
DF⑬松岡祐介(2)
DF④丸山祐市(3)
DF⑫奥田大二郎(3)
MF⑤宮坂政樹(3)
MF⑦三田啓貴(2)
MF⑩田中恵太(3)
MF⑨矢田 旭(1)
FW⑮久保裕一(4)
FW⑯山本紘之(4)

S U B

GK①笠原昂史(4)
DF⑭豊嶋剛平(3)
MF⑧田中翔太(3)
FW⑥日野竜一(4)
FW⑫山村佑樹(2)

MANAGER
神川明彦

[シュート]8:15 [GK]7:10 [CK]4:7 [直接FK]29:10
[間接FK]3:5 [主審]前之園 晴廣 [観衆]約2100人

警告(C)/退場(S)

[駒]59分:金久保 彩(C) 62分金 正也(C) 72分亀井秀将(C)
※データの左側が駒大

惜敗に終わった最終節

長いようで短かったリーグ戦はこのゲームを最後に閉幕した。終了を告げるホイッスルが鳴り響いた直後、ピッチにはまるで決勝戦が終わったかのようなコントラストが描かれていた。ハイタッチを交わし喜びを表現する明大イレブンとは対照的に、ピッチに倒れ込みうなだれる駒大イレブン。「明大には勝ちたかったので本当に悔しい」岡 大生(清水商業高校)。4年生は最後のリーグ戦だったが勝利を手にすることができなかった。酒井隆介(名古屋グランパスY)と湯澤洋介(矢板中央高)の主力2人を累積による出場停止で欠く、苦しい戦力事情の中試合は行われた。「いつもより中盤でのプレスが甘かったため、それに伴ってディフェンスラインがずるずる下がってしまった」、林堂 真(習志野高)が語るようにこの日の駒大は中盤での守備が甘く、機能不全に陥った。

序盤から細かいパスワークとサイドからのドリブルを駆使した攻撃で前半は明大ペース。受け身になる苦しい時間が続き、あわやという場面が続いた。13分には、左サイドを起点に崩され中央に折り返されると、相手のエース久保裕一(名古屋

グランパスY)に冷静に押し込まれてしまい先制を許す。その後も劣勢の状況は続き、思うように攻撃の形を作ることができない我慢の時間帯が続いた。19分には2点目を奪われ「前半はボールに対しての執着心や気持ちの部分が、全然なかった」と金 正也(神戸科学技術高)は振り返った。

後半は5分に奥村情(名古屋グランパスY)のスルーパスに反応した素 佑喜(丸岡高)が右サイドを抜け出すと、ニアに走りこんだ金久保 彩(花咲徳栄高)に低く早いクロスを合わせて1点を返す。この得点を機に駒大の攻撃のギアは上がり、怒涛の攻めを展開。同点に追い付くのは時間の問題か、そんな雰囲気は漂い始めていた。しかし62分。痛恨のPKを献上。ゲームの主導権を完全に握っていた時間帯だけに、痛すぎる3点目となってしまった。76分に素のシュートが決まり1点差に詰め寄るも、「2点で止まったといのが今の自分たちのチーム力」と金は現実を見つめた。リーグ戦の優勝は叶わなかったが、日本一になる権利は既に獲得している。この悔しさを胸に、インカレの舞台で躍動を願う。(田中幸生)